

第13回 和装振興協議会
議事要旨

1. 日 時： 令和7年3月5日（水）16：00～18：00
2. 場 所： 経済産業省 第1特別会議室 （経済産業省本館17階）
 - ・オンライン併用
 - ・YouTube 同時配信（アーカイブあり）
<https://www.youtube.com/live/AUmOrmsD3XQ>
3. 議 事：
 - （1）開会
 - （2）協議会及び配付資料等の公開について
 - （3）事務局説明（和装振興に向けて）
 - （4）株式会社丸上 代表取締役社長 上達 功氏
 - （5）株式会社岡野 代表取締役社長 岡野 博一氏
 - （6）株式会社あづまや きものひろば 代表 柴川 義英氏
 - （7）株式会社三越伊勢丹 第2MD グループ 呉服営業部 櫛引 はな氏
 - （8）株式会社 MIZEN 代表取締役 寺西 俊輔氏
 - （9）質疑応答・自由討議
 - （10）閉会

【配布資料】

- （資料1）和装振興協議会名簿
- （資料2）協議会・資料等の公開について
- （資料3）事務局説明資料
- （資料4）上達氏説明資料
- （資料5）岡野氏説明資料
- （資料6）柴川氏説明資料
- （資料7）櫛引氏説明資料
- （資料8）寺西氏説明資料

・資料等は、以下ページにて公開

https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/waso_kyogikai/013.html

【委員名簿（出欠）】

デービッド・アトキンソン	株式会社小西美術工藝社	代表取締役社長（オンライン）
奥山 功	一般社団法人日本きもの連盟	会長理事（欠席）
きくち いま	エッセイスト、イラストレーター	（欠席）
近藤 尚子（座長）	文化学園大学服装学部	教授、和装文化研究所 所長
五月女 利光	全国染色協同組合連合会	理事長
	（代理）金田 朝政	全国染色協同組合連合会 理事
佐々木 ベジ	公益社団法人全日本きものコンサルタント協会	会長（欠席）
田茂井 勇人	一般社団法人日本絹人織物工業会	会長（オンライン）
野瀬 兼治郎	一般社団法人全日本きもの振興会	会長
	／日本織物中央卸商業組合連合会	理事（オンライン）
房本 伸也	きもの安全・安心推進会議	議長（オンライン）
又吉 直樹（ピース）	吉本興業株式会社	（欠席）
松島 浩道	一般財団法人大日本蚕糸会	会頭
丸山 伸彦	武蔵大学人文学部日本・東アジア文化学科	教授（欠席）
矢嶋 孝行	一般財団法人きものの森	理事長
	（代理）乃一 勝美	一般財団法人きものの森 専務理事
吉田 満梨	神戸大学大学院経営学研究科	准教授（オンライン）
好本 達也	一般社団法人日本百貨店協会	会長（欠席）

【ゲストスピーカー名簿】

上達 功	株式会社 丸上	代表取締役社長
岡野 博一	株式会社 岡野	代表取締役社長
柴川 義英	株式会社 あづまやきものひろば	代表取締役
櫛引 はな	株式会社 三越伊勢丹 第2MDグループ	呉服営業部
	伊勢丹新宿店 和雑貨・シーズン	アシスタントバイヤー
寺西 俊輔	株式会社 MIZEN	代表取締役

【議事概要】

(1) 開会

(2) 協議会及び配付資料等の公開について

資料(2) 協議会及び配付資料等の公開について説明。

(3) 事務局説明(和装振興に向けて)

- 岡崎補佐から資料3をもとに和装産業の現状について説明。

<ゲストスピーカーからのプレゼンテーション>

- 各ゲストスピーカーから、資料に沿って説明。

(4) 株式会社丸上 代表取締役社長 上達 功氏

(5) 株式会社岡野 代表取締役社長 岡野 博一氏

(6) 株式会社あづまや きものひろば 代表 柴川 義英氏

(7) 株式会社三越伊勢丹 第2MD グループ 呉服営業部
伊勢丹新宿店 和雑貨・シーズン アシスタントバイヤー 櫛引 はな氏

(8) 株式会社 MIZEN 代表取締役 寺西 俊輔氏

(9) 質疑応答・自由討議

○五月女委員(金田委員代理) (全国染色協同組合連合会)

- 和装業界の川下・川中・川上という、全体で行動しないとなかなか発展していかない。そういった点では、ここに今日参加している皆様の取り組みは、私たち作り手としては非常にありがたい、たのもしい思いで聞いた。
- 呉服店である柴川様などのお話は非常に勉強にもなり、岡野さんの話でも、いろいろなスタンスでものを見られる立場でいるので、私も共感する点が多い。

○田茂井委員((一社)日本絹人織織物工業会)

- 丹後で丹後ちりめんを製造している。
- 皆さん、本当にすばらしい取組であり、こういったことを地道に広げていくことが着物ファンをつくることになっていく。
- 丹後産地では、組合等でも昨年6月から工場見学を積極的に受け、実際に絹に触れて絹のよさを知ってもらう、またシルクの織物を使った製品など販売も行える施設を設営(丹後シルクセンター <https://tanko.or.jp/tof/>)。当社も以前から工場見学を積極的に受け入れ、少しでも丹後ちりめんや、着物のことを知ってもらえるような取組をしている。

- また、工場見学や加工場の精錬の現場を見てもらった方々からは、大変な作業であり、やはり着物が高いのは分かる、と言われる。我々作る側としては苦勞のつもりではないが、しっかりとしたものづくりをしているということを御覧いただいて、それがまた絹の購入につながっていけばと取り組んでいる。
- いろいろな面で協力しながら、この業界を盛り上げていきたい。

○野瀬委員（全日本きもの振興会）

- 上達氏の提言に強く共感し、和装振興の重要性を再確認。
- コロナ前と後で、着物を着る場面が変化している。結婚式や葬式、パーティーなどが簡素化・カジュアル化されている。
- 着物を初めて着る導入部分の体験は重要であり、一番最初に楽しい印象を持たせることが必要。着物の着用に関する厳しい規則やルールを押し付けることは逆効果である。
- 七五三などの行事を通じて、子供たちが着物の良さを記憶に留めることが大切であり、そこから興味がわき、勉強し、楽しみにつながる。レンタルや着用場面を増やすなどはこれからもしていきたい。
- 岡野氏の発表にあった「二重価格問題」については、業界全体で非常に強い危機感を抱いている。最初は期間限定のバーゲンセールから始まったものが、年中バーゲンセールとなり、いつの間にか不当な二重価格となっている。このような販売手法は不適切であることを周知し、行政の指導を仰ぎながら、業界が一体となって、しっかりと対処する必要がある。
- TP0（時・場所・場合）に関する話題が柴川さんから提起されたが、温暖化の影響で単衣の着用時期が従来の6月から9月ではなく、5月から10月、あるいは4月から11月まで広がっている。全日本きもの振興会の会長として、茶道界や祇園に柔軟な対応をアプローチしたが、トップの人たちは伝統的なしきたりはなかなか変えにくい。時間をかけて温暖化等への対応を柔軟にしていけるよう、それが当たり前になるようにしていかないといけない。
- また、京都和装産業振興財団では、小学校から高校までの授業で着付け教室を増やしているが、効果が出るまでには時間がかかる。年から10年の長期的な取り組みが必要。
- 業界全体としての結論は、着物を着ることが「格好いい」と感じられるような運動をしていくことが大事と思う。

○近藤座長

- 幾つかの課題について御指摘いただいた。粘り強くこちらとしても検討していきたい。

○房本委員（きもの安全・安心推進会議）

- 毎年いろいろな気づきのある会議で感謝。
- 新しい着物ファンの開拓、新しい着物ファンを増やすなど、まだ着物に関わっていない人々を引き込むこと一点に絞ってよい。柴川さんが指摘した着物のTP0の撤廃や、上達さんが提案したイベントを通じて着物姿を目に触れさせること、さらに櫛引さんが言及した浴衣から着物へのつながりも重要。
- 着物は衣食住の「衣」であり、ファッションや伝統衣装としての側面を持つため、まずは着物を着てもらう、新しいファンをつくることにしぼっていく。また、MIZENの洋

服を通じて産地の着物への興味を引き出すことや、伝統芸能や茶道、華道といった文化とのコラボレーションも大事。方法はたくさんある。

- そのため、着付けの教育が新しいファンを増やすために不可欠であり、着付け学院も頑張っておられ、全国の呉服店での着付け教室もあり新しいファンを増やすことは、着物を始めるのに非常に重要。

○松島委員（（一財）大日本蚕糸会）

- 大日本蚕糸会は、きもの産業では一番上流を担当する立場。消費者と着物の供給者をつなげる場づくりについてコメントしたい。最近、銀座で開催された展覧会では、30社近い製造業者が参加し、消費者との交流が行われた。この中で、西陣の織屋さんは、従来の販売方法を見直し、自ら消費者と接する必要性、重要性を強く感じた。別の方は、消費者の中には着物に関する深い知識を持つ方が多く、ネットでの情報収集が大きいだろうと考えられる。
- 西陣のような伝統的な産地であっても、これまでの流通経路に依存せず、直接消費者と結びつく新しい流通形態を試していく環境が整いつつある。近藤委員から着物の文化資本の話があったが、消費者が製造業者と接することで、技術やストーリーに触れる機会が増え、上達氏が触れた流通の効率化にもつながると考える。
- このような環境を踏まえ、新しいサプライチェーンの推進を期待する。

○近藤座長

- そういったことが生産者の負担になっている一面もあるとの指摘もある。

○矢嶋委員（乃一委員代理）（（一財）きものの森）

- ゲストスピーカーの皆様からの発言は非常に素晴らしかった。
- 上達氏のご発言では、「適正価格」について、サプライチェーン全体の適正な利益配分についてもよく考える必要があると同意。
- 岡野氏指摘の「二重価格」について、業界の悪しき慣習であり早急な是正が必要。消費者の業界不振につながっている。
- 柴川氏が提案した着物の TP0 の撤廃も、業界として時代や気候に合わせた着方をもって推進していくべき。
- 櫛引氏の視点は素晴らしく当社でもゆかたはきものとして捉えておりきものの入口としても非常に大切。
当社においても商品製作に関わるのは以前ほとんど男性ばかりだったが、現在はほとんどが女性。女性の視点を活かすことは、マーケットを作る一つのヒントではないか。
- 寺西氏に関しては、作り手の皆さんを共創という視点で捉えられているということと、ネームのことはすごく感動した。そういったことによって、着物素材、ものづくりをしっかりと共有できる。
- 変化することは大事、常にチャレンジする、変わることをためらわないことが重要。
- 考えているが、実行しないのが現状の業界の課題。

○吉田委員（神戸大学大学院准教授）

- ゲストスピーカーの話は大変学びが多かった。
- 房本委員ご指摘の、着物ユーザー以外にいかに関心を持ってもらうか、新しい着物ファンを増やすことに振興の方向性を絞ってよいのではとの意見に共感しました。

- マーケティング理論でいうと、消費者は着物自体がほしいから買うのではない。戦後に着物市場が成長した理由も、戦争を経験した親御さんが高度経済成長下になり、成人を迎えた子どもの明るい未来をお祝いしたいとか、嫁ぐ娘が将来苦労しないようお守りを授けたいといった思いで、その手段として着物を求められたためだと考えている。時代が変わる中で、着物を買う消費者は本当は何を求めているのかをつかめてこなかったことが、低迷の一つの理由ではないか。
- スピーカーの方たちの話では、日本・地域の文化に対する理解を深めたい、日常にもっと新鮮でかわいいものを取り入れたい、手仕事で作られた背景にある思想や、それを取り入れる自分の暮らしというのにすごく満足を感じる等、そういったものが複数着物の価値としてあるところに、いろいろな取組を生み出してくださっている。
- それぞれ違う価値提案だが、共通する面がある。上達氏の七夕ゆかた祭が盛り上がった背景が、地域の方の思いとかディベロッパーの方の思いとか、着物を通じて誰かの問題を解決できないかと取り組まれたからこそ、多くの方々とのパートナー関係で大きな取組になっていったのではないか。柴川氏の JA との連携も同様だと思う。
- 着物には、長い時間や歴史を伴っている文化資本としての価値がある。着物や伝統産業だけではなく、その土地の文化や歴史に根差した価値観を反映したモノづくりこそが、日本の国策としての産業全体の勝ち筋であるということが重要。
- 野瀬委員の「導入部分が大事」とのコメントにも同意。小学校の卒業式の和装がブームになっていることで学校ともめたりしているが、初めて自ら着物を着たいと希望する小学生の子供たちの思いは尊重されるべき。反対意見も含めて関心が高いのは確かなので、それをつなげてどういった方々にどういった価値を提供できるか、もう少しこの協議会を通じて整理していけそうとの印象を持った。

○近藤座長

- 協議会の今後の課題についてもおまとめいただけて、非常にありがたい。引き続き頑張りたい

○アトキンソン委員（チャットの書き込みにて）

- 前から産地、素材、などの表示をするようにした方が良いとコメントを何回も申し上げています
- 最近着物を新調しましたが、何も産地の情報はありませんでした。今日もそういったコメントはありました。20年前と変わらないビジネスのやり方でしたし、この委員会で話されている内容は一つ反映されていません。
- 茶道の人口は20年前に比べて確かに三分の一に減っています。

○近藤座長

- 最後の吉田委員からのお話の中にもあったが、国策としてとか国を挙げてというようなことがキーワードになっていたかと思う。一企業とか一地域とかではなく、国を挙げて考えていければ大きな動きになるのではないかと話があったが、関連して、経済産業省のほうから何かコメントはあるか。

○高木生活製品課長

- いろいろなご意見、アイデアをありがとうございます。国として何ができるか、いつも考えながら進めているつもり。
- 岡野氏指摘の法令遵守について、我々としてもしっかり伝えていきたい。

- ものづくりの価値について、きものについて考えると、特別なものと考えすぎている。自分は子供の頃から着物に近い環境にあったが、それでさえ、（着物に対し）心理的、価格的な抵抗がある。
- 自分は、着物のみならず繊維産業全般を担当しているが、共通しているのは、産地も含めたブランド価値をどう高めるか。これは現場を見せること、着ているところを見せること、あるいは自分が着ることで価値を感じられる。
- MIZEN さんご指摘の日本のものづくり価値という観点で、繊維産業全体でサプライチェーンの発展を考えることが重要。
- また、上達氏のご指摘のように、利益を出していかなければならないので、外需も含め国の方針、支援の基軸として位置づけるべきではないかと考えている。
- 業界の皆さんともやりとりさせていただきながら、来年度以降の取組、着物の振興に直接・間接あるかもしれないが、サポートできるような話があれば、積極的に考えてやっていきたい。

○近藤座長

- 研究会は、本日の協議会のように非常に前向きな議論をする場であった。それを受けて、協議会がそれを各業界団体の方にお伝えし、広めていただくというスタンスでやっているが、なかなか難しい。ただ粘り強くやっていく必要はあろう。
- 今日はわくわく感がありうれしかった。粘り強く今後も検討を進めていきたい。国、業界、一体となって進めていくことが大切。

○岡崎補佐

- 次回開催については委員と相談の上で決める。
- 本日の議事概要は、事務局で作成し、委員の皆様に確認後、経済産業省のホームページに掲載予定。

以上